

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2003-170981  
(P2003-170981A)

(43)公開日 平成15年6月17日(2003.6.17)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード*(参考)
B 6 5 D	85/50	B 6 5 D	G 3 E 0 0 6
	21/02		Z 3 E 0 3 5
	25/04		B 3 E 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2001-372197(P2001-372197)

(22)出願日 平成13年12月6日(2001.12.6)

(71)出願人 392034746

吉川化成株式会社

大阪府大阪市鶴見区横堤5丁目6番34号

(72)発明者 溝田 豊彦

大阪府大阪市鶴見区横堤5丁目6番34号

吉川化成株式会社内

(74)代理人 100102211

弁理士 森 治 (外1名)

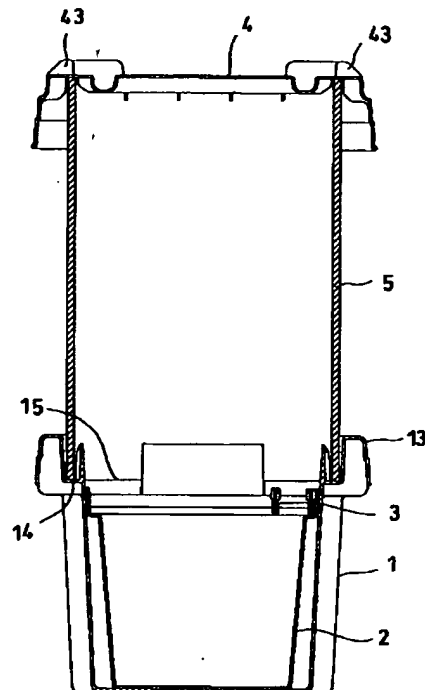
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 仏花等の包装容器

(57)【要約】

【課題】 予め束ねた仏花等を、複数束、立てた状態で、かつ整列して収容し、そのまま輸送、さらには整列して商品価値を損ねることなく展示販売できるようにした仏花等の包装容器を提供すること。

【解決手段】 仏花等の輸送と保管とを可能にした包装容器本体1と、この包装容器本体1の内部に整列して収容できるようにした複数個の収容容器2と、収容容器2の上端に収容容器2内に収容する束ねた仏花等を立てた状態で保持するようスライド可能に装着するスライド仕切り3と、蓋4とから構成する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 仏花等の輸送と保管とを可能にした包装容器本体と、この包装容器本体の内部に整列して収容できるようにした複数の収容容器と、収容容器の上端に収容容器内に収容する束ねた仏花等を立てた状態で保持するようスライド可能に装着するスライド仕切りと、蓋とからなることを特徴とする仏花等の包装容器。

【請求項2】 包装容器本体を、入れ子式に積み重ね可能とした断面形状を有し、かつ側壁の一部に把持部を形成したことを特徴とする請求項1記載の仏花等の包装容器。

【請求項3】 収容容器を、仏花等を、複数束、立てた状態で収容できるようにした複数連のポット部を形成したことを特徴とする請求項1又は2記載の仏花等の包装容器。

【請求項4】 スライド仕切りを、両端に形成した扶持片にて、収容容器の上端縁に摺動可能に係止できるようにしたことを特徴とする請求項1、2又は3記載の仏花等の包装容器。

【請求項5】 蓋の上面に、積み重ねる上段側包装容器本体の底部の滑り止めとなる突条に係止片を形成したことを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の仏花等の包装容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、仏花、椿、花束等の束ねた生花（本明細書において、「仏花等」という。）の包装容器に関し、特に、そのまま仏壇に供えられるように予め束ねた仏花等を、複数束、整列して収容、輸送、販売のための展示を行えるようにした仏花等の包装容器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】生花のうち、例えば、仏花は、各小売店で仏花に適した複数種の生花を単品で仕入れ、これを各店頭で仏壇に供えられるように適当に組み合わせで束ね、この束ねた仏花を、水を入れたバケツ等のあり合わせの容器に収容して販売するようになり、生花加工業者が製造した仏花を水を入れたバケツ等の容器に入れて小売店まで輸送し、各小売店ではこの仏花を、水を入れたバケツ等のあり合わせの容器に移し替えて販売するようしていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来、仏花は、このようにして販売されているが、前者の場合は、複数種の花を適当に組み合わせで1つずつ店頭で束ねているため、この花を束ねることに手数がかかるとともに、仏花用として複数種の生花をそれぞれ単独で仕入れるため、組み合わせによっては不足する花種と、余る花種とが生じ、不経済であり、さらには、この束ねた仏花は、バケツその他のあり合わせの容器に収容して店頭で販売している

ため、嵩張るとともに見栄えがすっきりせず商品価値を低下させるという問題があった。また、後者の場合は、各小売店において、輸送されてきた仏花を他の容器に移し替えて販売する必要がある、手数を要するだけでなく、移し替え時に仏花を損ねることがあるという問題があった。

【0004】本発明は、上記従来の仏花の提供方法の有する問題点を鑑み、予め束ねた仏花等を、複数束、立てた状態で、かつ整列して収容し、そのまま輸送、さらには整列して商品価値を損ねることなく展示販売できるようにした仏花等の包装容器を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、本発明の仏花等の包装容器は、仏花等の輸送と保管とを可能にした包装容器本体と、この包装容器本体の内部に整列して収容できるようにした複数の収容容器と、収容容器の上端に収容容器内に収容する束ねた仏花等を立てた状態で保持するようスライド可能に装着するスライド仕切りと、蓋とからなることを特徴とする。

【0006】この仏花等の包装容器は、予め束ねた仏花等の輸送と保管とを可能にした包装容器本体内に収容する複数の収容容器に、仏花等を立てた状態で収容するようにし、これに水を充填するようにしているから、束ねた生花が枯死等、長時間に亘って損なうことなく輸送することができるとともに、包装容器本体そのままでも、また、包装容器本体から収容容器を取り出すことにより、収容容器をそのまま展示用容器としても使用できる。また、仏花等の鮮度を維持するための水は、収容容器にのみ入れればよいから、必要な水量が少なくなり、軽量化を図ることができ、また、輸送時に包装容器から水がこぼれる等の事故をなくすることができる。また、包装容器本体自体には水を入れないため汚れにくく、水を入れて汚れる収容容器は包装容器本体から取り出して洗浄することができる。さらに、各収容容器にスライド仕切りをスライド可能に装着しているから、収容容器内に収容する仏花等の束数が、店頭で販売等により満杯状態から漸減的に減少するような場合でも残りの束ねた仏花等はスライド仕切りを移動するだけで倒れることなく保持できる。

【0007】この場合において、包装容器本体を、入れ子式に積み重ね可能とした断面形状を有し、かつ側壁の一部に把持部を形成することができる。

【0008】これにより、空の包装容器本体を入れ子式に積み重ねるようにすることができるので、空容器も嵩張ることがなく保管、搬送することができ、また、把持部を形成することにより、仏花等の包装容器を満杯になった状態でも楽に持ち運ぶことができる。

【0009】また、収容容器を、仏壇に備えられるように束ねた仏花等を、複数束、立てた状態で収容できるよ

うにした複数連のポット部を形成することができる。

【0010】これにより、収容容器にポット部を形成しているため、このポット部内に貯水することで生花が枯死することなく、比較的長期間の保存が可能となり、また、ポット部を複数連としているため、束ねた仏花等の整列保管が容易に行え、販売時においても美観を損ねることがない。

【0011】また、スライド仕切りを、両端に形成した挟持片にて、収容容器の上端縁に摺動可能に係止できるようにすることができる。

【0012】これにより、収容容器内に収容する仏花等の束数に応じて、スライド仕切りを簡単に移動させるだけで、収容容器の満杯状態から数少なくなった状態まで収容数に関係なく常に仏花等を立てた状態で保管、収容、又は展示できるので仏花等を損ね、商品価値を低下させることがない。

【0013】また、蓋の上面に、積み重ねる上段側包装容器本体の底部の滑り止めとなる突条の係止片を形成することができる。

【0014】これにより、蓋をした包装容器本体の上に他の包装容器本体を積み重ねるだけで、蓋上面に形成した突条の係止片にて上段側包装容器本体の底部の四隅に係止するため、上段側包装容器本体の滑り止めとなり、複数段の積み重ねが簡易に、安定して行え、輸送、保管が容易に安全に行える。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、本発明の仏花等の包装容器の実施の形態を図面に基いて説明する。

【0016】図1～図7に、本発明の仏花等の包装容器の一実施例を示す。この仏花等の包装容器は、合成樹脂製で、嵩張る空容器を入れ子式に重ねられるようにし、かつ内部に複数の収容容器を収容できるようにした包装容器本体1と、この包装容器本体1の内部に挿入脱抜可能に収容し、かつ仏花等に適した生花の複数種を束にした状態で、この多数の束をそのまま展示販売可能なように整列して収容できるようにするとともに、生花が必要とする水を貯留できるようにした収容容器2と、この収容容器内に収容する束ねた仏花等を立てた状態で整列して保持するため収容容器2にスライド可能に係止したスライド仕切り3と、収容包装容器本体1の上部に着脱可能に嵌着し、収容した仏花等を包装容器本体1と一体となって保護することができる蓋4とより構成される。

【0017】また、この仏花等の包装容器を構成する包装容器本体1をはじめとし、収容容器2、スライド仕切り3、蓋4を、すべて合成樹脂で製造するものとし、かつ繰り返し使用できるようにするとともに、使用合成樹脂としては、再利用可能な樹脂、さらには焼却処分しても有害ガスなどが発生しないものが望ましい。このうち、包装容器本体1は、図1～図3に示すように、多数本の切り花を収容し、輸送又はそのまま倉庫、店頭等に

て保管することができるように、矩形断面を有するとともに、上から下へ僅かに縮小したテーパ形に形成する。これにより、包装容器本体1を、図2、図3に示すように、互いに入れ子式に積み重ねることができるようになり、空容器を嵩を低くして保管又は再使用のために輸送することができる。

【0018】この場合、矩形断面を構成する包装容器本体1の四周の側壁は、比較的薄い板厚としても所要の強度を持たせるように、図2、図3に示すように、相対的に上下方向に延びる突出部11と窪み部12とを交互に形成し、開口部には、開口端縁の補強を兼ね、かつ蓋4又は延長部材5を嵌着できるように、開口部の周回方向に沿って外方へ突出し、かつ下方に折れ曲る縁部13を形成するようにする。なお、図示の実施例においては、包装容器本体1の短辺側の側壁に窪み部12を1つ、長辺側の側壁に窪み部12を2つを形成しているが、これは特に限定されるものではない。

【0019】また、包装容器本体1内に束ねた仏花等を収容し、これに蓋4を被着した場合、この仏花等の長さが包装容器本体1の内高長よりも長いと、仏花等、特に花部分が押圧されて損傷することがある。これを防止するため、図1、図7に示すように、包装容器本体1と蓋4との間に、合成樹脂製又は紙製の延長部材5を用いる。この延長部材5は、包装容器本体1内に形成する段状の延長部材載置片14、15にて支持するようにする。

【0020】包装容器本体1には、延長部材5を載置し、支持するための延長部材載置片14、15を包装容器本体1の側壁内面から内側に少し突出し、かつ先端を上方に延出して形成するとともに、この延長部材載置片14、15の延出高さは、縁部13より上方に突出しないように設定することが望ましく、これにより、包装容器本体1の上端開口部より上方に突出することがないため、延長部材載置片14、15が損傷を受けることをなくすることができる。

【0021】また、本実施例の切り花用包装容器においては、包装容器本体1の対向する側壁内面から内側に突出して形成した延長部材載置片14、15の下方の側壁12を内側に窪ますとともに、凹凸形を形成することにより、把持部16を形成するようにしている。なお、把持部16は、本実施例に示すように、手指に馴染む形状に形成することが望ましい。これにより、奥行きのある把持部16を形成することができ、仏花等の包装容器を楽に持ち運ぶことができるものとなる。

【0022】収容容器2は、図4に示すように、包装容器本体1の内部に整列して、特に限定されるものではないが、1列状に整列して挿入し、かつ必要なものを脱抜可能に収容できるように構成する。そして、仏花等に適した生花の複数種を用いて予め束にし、この多数の束をそのまま展示販売可能なように収容容器2内に立てた状

態で、整列して収容でき、かつ生花が必要とする水を貯留できるようにする。このため、収容容器2は、仏壇に供えられるように束にした仏花等を列状に整列して収容できるようにしたポット部21を形成するが、このポット部21は複数連、特に限定するものではないが、例えば図示のように、2列に配列されるように各ポット部21、21を配列形成する。このポット部21、21は、上部においては連通するも中央部から下部に亘って各ポット部21、21が独立した複数連式とするとともに、各ポット部21、21を矩形断面を有し、上から下へ僅かに縮小したテーパ形に形成し、空の場合、入れ子式に嵌合可能とする。これにより、収容容器2を包装容器本体1内に挿入可能とし、さらに各ポット部21に所要量の水を充填できるようにする。また、この収容容器2の上端を開口し、この対向する上端縁を摺動縁部22、22とし、これに摺動可能にスライド仕切り3を架け渡すように架設する。なお、図4に示す実施例ではポット部を2連としたが、これは特に限定されるものではなく、2連以上の複数連とすることができる。

【0023】また、図示の実施例のように、ポット部21を2連にして配列する場合、この各ポット部21、21の接続部の補強を行うため、この接続部を蒲鉾形としたガイドリブ部を形成するとともに、このガイドリブ部24の下面側に補強リブ25を一体に形成する。さらに、スライド仕切り3を摺動可能に架け渡す2つの摺動縁部22、22と交わる方向の他の上端縁部23、23は、スライド仕切り3の抜け止めともなるように摺動縁部22、22の上端よりも少し突出するように形成する。これにより、2連のポット部にそれぞれ束にした仏花等を1列ずつ整列して収容できるようにする。この場合、スライド仕切り3を摺動縁部22、22に架け渡した状態で、空の収容容器2を入れ子式に積み重ねることができるよう、摺動縁部22、22をポット部21の位置より側方に延出して形成するようにする。

【0024】スライド仕切り3は、束ねた仏花等を、複数束、収容容器2のポット部21、21内に収容したとき、この仏花等の収容束数に関係なく常に立てた状態で、かつ整列した状態を保持できるように、収容容器2の上端縁の摺動縁部にスライド可能に係止して配設するようにする。このため、スライド仕切り3は、図6に示すように、収容容器2の内部に挿入できる長さを備えた平板状の仕切り本体30の両端部に、下方に延出するようにして弾性を備えた扶持片31、31を突設し、この扶持片31と仕切り本体30の端部との間に下方が開口したU字形の扶持溝32、32を一体に形成して構成する。この仕切り本体30の両端部に形成する扶持溝32、32の間隔は、収容容器2の摺動縁部22、22間と等しくし、これにより収容容器2に摺動可能に係止する。なお、平板状の仕切り本体30の中央部下面には、収容容器2に形成する蒲鉾形のガイドリブ部24に係止

できるように窪み33を形成する。

【0025】蓋4は、図5に示すように、包装容器本体1と同様に合成樹脂製とし、包装容器本体1の縁部13に嵌合、その他の方法により、着脱可能な形状に成形する。すなわち、蓋4の外周部には、包装容器本体1の縁部13へ嵌合係止できる係止溝41を形成するようにするとともに、上面の四隅位置には、上段側に積み重ねる包装容器本体の下面の四隅を滑動することなく、定位置に確実に定位置に係止するためのL字形をした突条の係止片43、43を形成する。この係止溝41は、包装容器本体1に延長部材5を載置する場合、この延長部材5の上端縁にも嵌合係止できるものである。そして、特に限定されるものではないが、図5に示すように、必要に応じて、蓋4のほぼ全面に通気孔42を形成する。

【0026】なお、蓋4に形成する通気孔42は、必要に応じて、包装容器本体1の側壁にも形成することができ、特に、通気孔を適当な大きさに開口することにより、収容した切り花の状態を容易に観察することができるものとなる。

【0027】延長部材5は、延長部材5の下端部が、包装容器本体1の側壁内面と延長部材載置片14、15との間に嵌挿することができるよう、包装容器本体1より一回り小さい矩形断面形状に形成され、使用する前は高低くするため、折り目を介して2つ折りとすることができるようにする。また、この延長部材5は、特に限定されるものではないが、合成樹脂製又は段ボール等の紙製とすることができる。なお、紙製の場合には、ワックス等の防水剤を塗布又は含浸させることが望ましい。

【0028】また、延長部材5は、材質に関係なく、いずれも、鋏、カッターナイフ等にて簡易に切断できるようにする。これにより、包装容器内に収容する切り花の長さに合わせて延長部材5を切断し、適切な寸法にして使用できるようにする。

【0029】次に、この仏花等の包装容器の使用方法について説明する。束にした仏花等を収容する場合、包装容器本体1内に多数束を、その切り口が下になるように、収容容器2のポット部21、21内に立てた状態で収容する。この場合、ポット部21、21内に水を充填しておくか、又は仏花等を収容した後に水を充填し、これによりポット部に所定の水量を貯水することができる。これにより、輸送時、又は保管、展示時にこのポット部の貯水にて生花は枯死することなく、長期の保存が可能となり、さらに収容容器2にスライド可能なスライド仕切り3を配設して束ねた仏花等を予め整列して収容できるので、輸送する際においても、仏花等が振動等により互いに擦れ合って傷まないようにすることができる。また、仏花等の鮮度を維持するための水は、収容容器2のポット部21、21内にのみ入れればよいので、必要な水量が少なくなり、軽量化を図ることができ、また、輸送時に包装容器から水がこぼれる等の事故をなく

すことができ、輸送を行いやすくすることができる。そして、仏花等の長さが、包装容器本体1内に収まる程度の比較的短い切り花の場合は、包装容器本体1に直接、蓋4を嵌着することができる。これは包装容器本体1の縁部13に蓋4の係止溝41を嵌合することにより行える。

【0030】一方、仏花等の長さが長く、包装容器本体1内に収まらずに突出する場合には、図7に示すように、包装容器本体1に延長部材5を載置する。この場合、延長部材5は包装する花の高さに応じて必要の高さに切断しておくものとする。これにより、矩形形状とした延長部材5を包装容器本体1の上方から挿入することにより、延長部材5の下端部が、包装容器本体1の側壁内面に形成した延長部材載置片14、15に支持され、外部に露出しないことから、延長部材5の載置状態が安定するとともに、延長部材5が何らかの他の物体と接触しても簡単に外れることがなくなり、内部に収容する仏花等の保護を行う。そして、この場合も、延長部材5の上端縁に蓋4を嵌着することができる。

【0031】なお、使用後は、包装容器本体1は包装容器本体同士、収容容器2は収容容器同士、互いに入れ子式に重ね、また、延長部材5は2つ折りに扁平状とし、蓋4は蓋4同士互いに入れ子式に重ねることにより、嵩を低くして保管又は再使用のために輸送することができる。また、この仏花等の包装容器は、包装容器本体1自体には水を入れないため汚れにくく、水を入れて汚れる収容容器2は包装容器本体1から取り出して洗浄することができるため、洗浄の手間を軽減できるとともに、洗浄自体を容易に行うことができる。

【0032】以上、本発明の仏花等の包装容器について、その実施例に基づいて説明したが、本発明は上記実施例に記載した構成に限定されるものではなく、その対象も、仏花に限らず、椿、花束等の束ねた生花の包装容器として広く用いることができ、これを排除するものではない等、その趣旨を逸脱しない範囲において適宜その構成を変更したり、適宜用途に転用することができるものである。

#### 【0033】

【発明の効果】本発明の仏花等の包装容器によれば、予め束ねた仏花等の輸送と保管とを可能にした包装容器本体1内に収容する複数個の収容容器に、仏花等を立てた状態で収容するようにし、これに水を充填するようにしているから、束ねた生花が枯死等、長時間に亘って損なうことなく輸送することができるとともに、包装容器本体そのままで、また、包装容器本体から収容容器を取り出すことにより、収容容器をそのまま展示用容器としても使用できるので、各販売店頭での手数を要することなく、仏花等を美しく展示し、販売を行うことができる。また、仏花等の鮮度を維持するための水は、収容容器にのみ入れればよいから、必要な水量が少なくなり、軽量

化を図ることができる。また、輸送時に包装容器から水がこぼれる等の事故をなくすことができ、輸送を行いやすくすることができる。また、包装容器本体自体には水を入れないため汚れにくく、水を入れて汚れる収容容器は包装容器本体から取り出して洗浄することができるため、洗浄の手間を軽減できるとともに、洗浄自体を容易に行うことができる。さらに、各収容容器にスライド仕切りをスライド可能に装着しているから、収容容器内に収容する仏花等の束数が、店頭で販売等により満杯状態から漸減的に減少するような場合でも残りの束ねた仏花等はスライド仕切りを移動するだけで倒れることなく保持されるので、仏花等を損ねることがなく、残りの1つまで体裁良く展示販売することができる。

【0034】また、包装容器本体を、入れ子式に積み重ね可能とした断面形状を有し、かつ側壁の一部に把持部を形成することにより、空の包装容器本体を入れ子式に積み重ねるようにすることができるので、空容器も嵩張ることがなく保管、搬送することができ、また、把持部を形成することにより、仏花等の包装容器を満杯になった状態でも楽に持ち運ぶことができる。

【0035】また、収容容器を、仏壇に備えられるように束ねた仏花等を、複数束、立てた状態で収容できるようにした複数連のポット部を形成することにより、収容容器にポット部を形成しているため、このポット部内に貯水することで生花が枯死することなく、比較的長期間の保存が可能となり、また、ポット部を複数連としているので、束ねた仏花等の整列保管が容易に行え、販売時においても美観を損ねることがない。

【0036】また、スライド仕切りを、両端に形成した挟持片にて、収容容器の上端縁に摺動可能に係止できるようにすることにより、収容容器内に収容する仏花等の束数に応じて、スライド仕切りを簡単に移動させるだけで、収容容器の満杯状態から数少なくなった状態まで収容数に関係なく常に仏花等を立てた状態で保管、収容、又は展示できるので仏花等を損ね、商品価値を低下させることがない。

【0037】また、蓋の上面に、積み重ねる上段側包装容器本体の底部の滑り止めとなる突条の係止片を形成することにより、蓋をした包装容器本体の上に他の包装容器本体を積み重ねるだけで、蓋上面に形成した突条の係止片にて上段側包装容器本体の底部の四隅に係止するため、上段側包装容器本体の滑り止めとなり、複数段の積み重ねが簡易に、安定して行え、輸送、保管が容易に安全に行える。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の仏花等の包装容器の実施の形態を示す外観斜視図である。

【図2】包装容器本体を示し、(A)は一部破断した正面図、(B)は平面図である。

【図3】包装容器本体を示し、(A)は底面図、(B)

は一部破断した側面図である。

【図4】収容容器を示し、(A)は一部破断した正面図、(B)は一部破断した側面図、(C)は平面図、(D)は底面図である。

【図5】蓋を示し、(A)は一部破断した正面図、(B)は底面図、(C)は一部破断した側面図である。

【図6】スライド仕切りを示し、(A)は平面図、(B)は正面図、(C)は底面図、(D)は側面図、(E)は断面図である。

【図7】包装容器本体の使用状態を示す断面図である。

【符号の説明】

1 包装容器本体

11 突出部

12 窪み部

13 縁部

14, 15 延長部材載置片

16 把持部

2 収容容器

21 ポット部

3 スライド仕切り

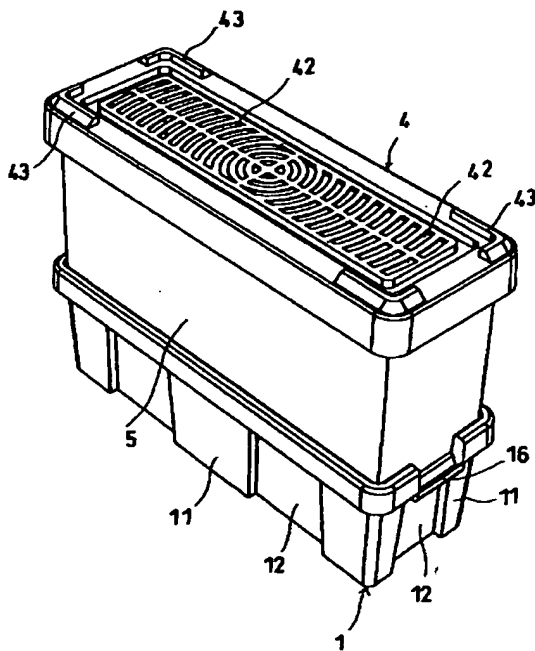
31 挟持片

4 蓋

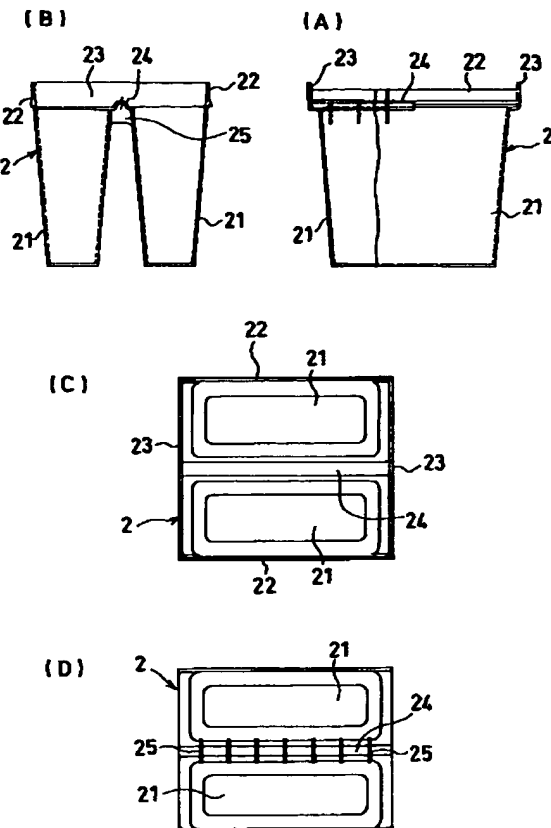
41 係止溝

5 延長部材

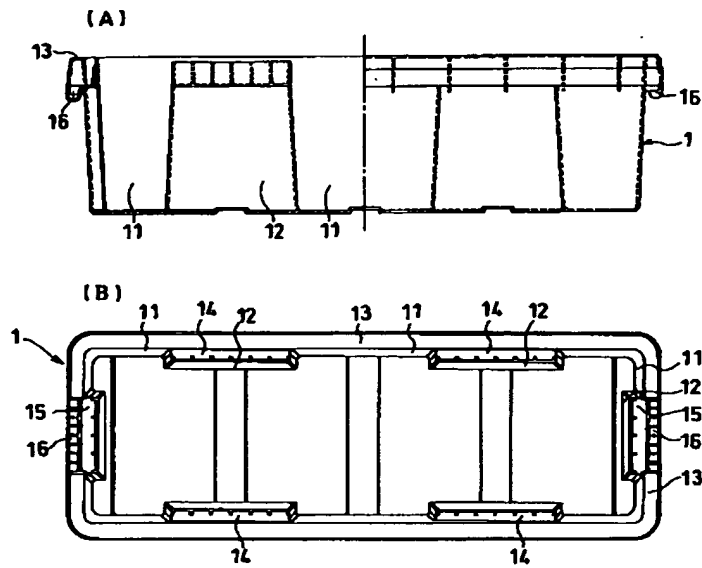
【図1】



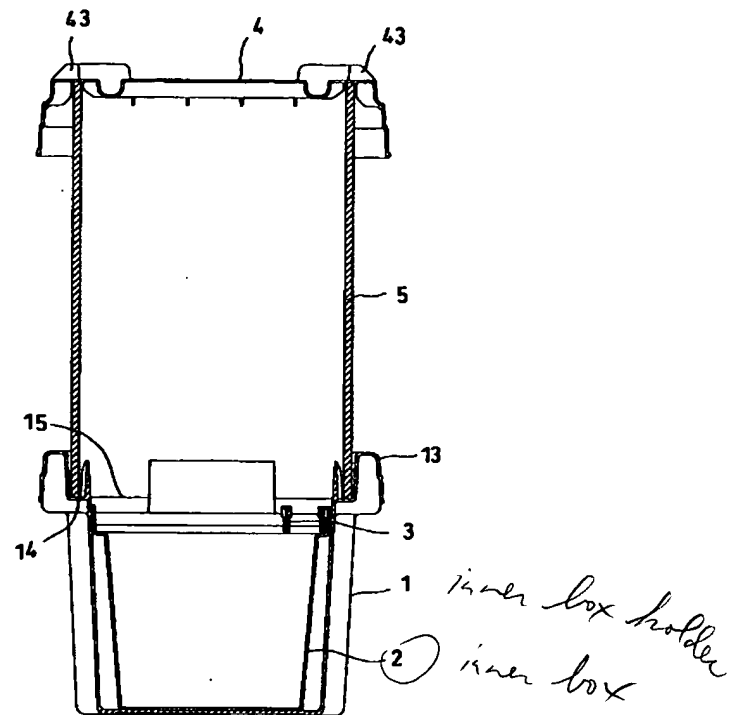
【図4】



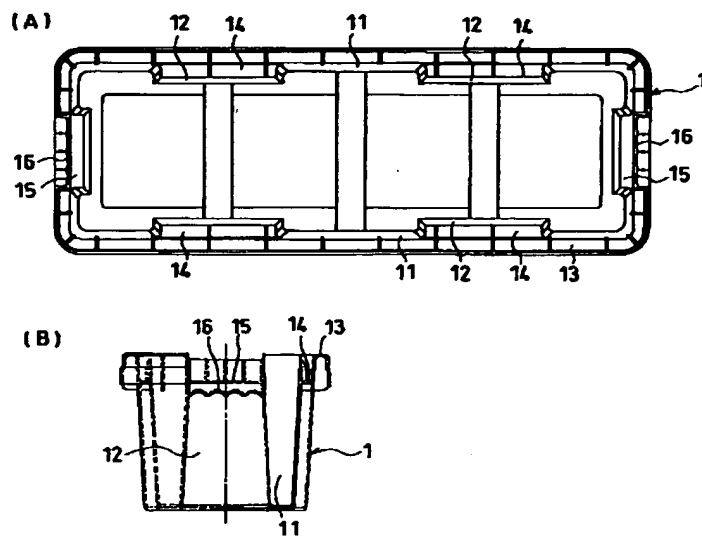
【図2】



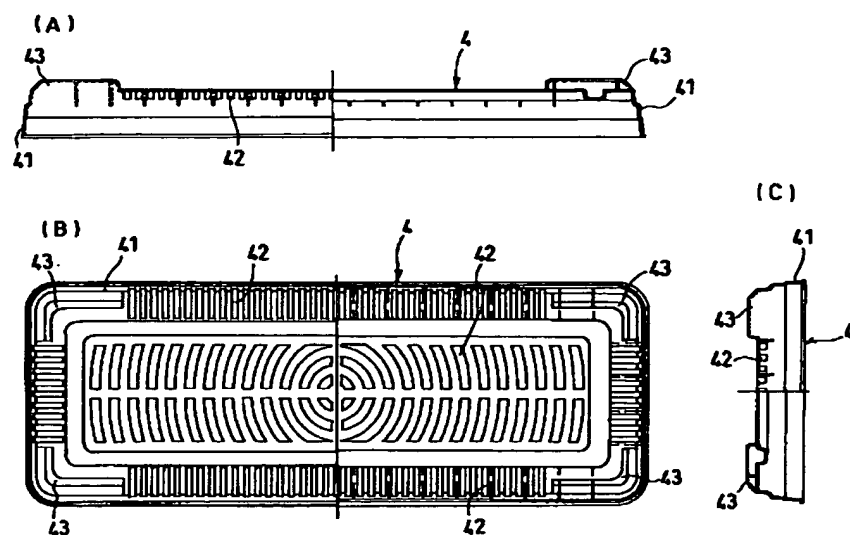
【図7】



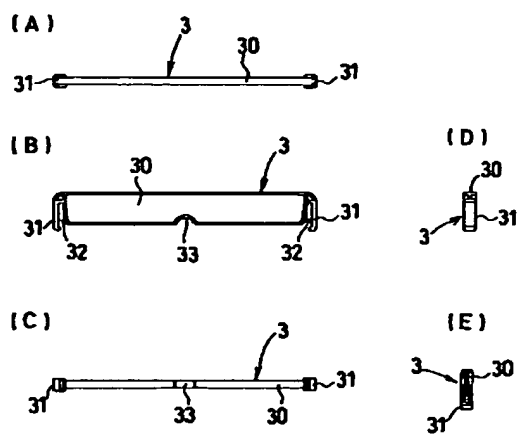
【図3】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E006 AA01 AA02 BA02 CA06 DA01  
 DA03 DB01  
 3E035 AA20 AB10 BA01 BB01 BB02  
 BC02 CA02  
 3E062 AA01 AB07 AC02 EA02 EB03  
 EC01